

りそな Asia時事フラッシュ

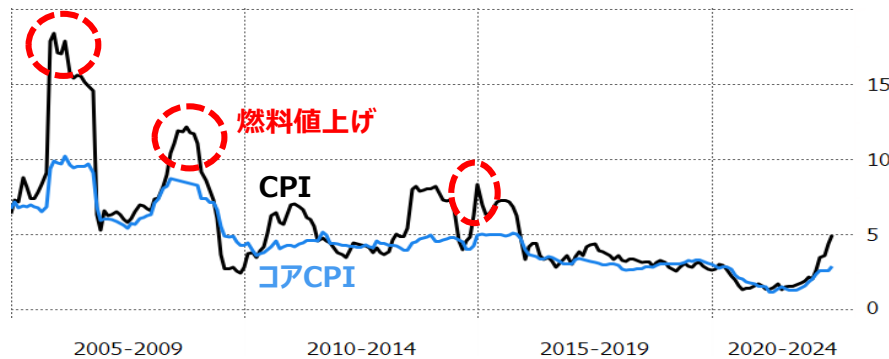
インドネシア中銀は利上げ実施へ

2022/8/25

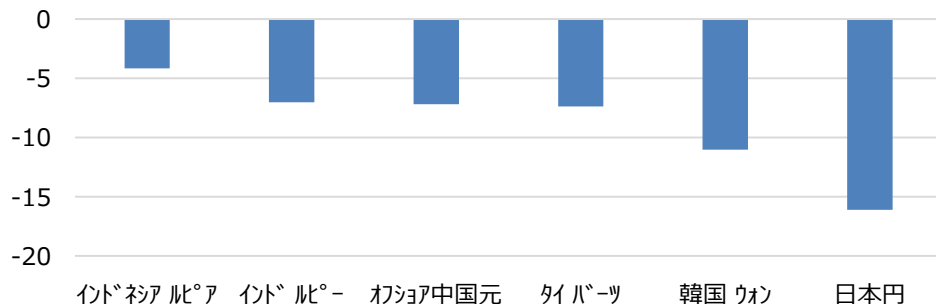
りそなHD 市場企画部
担当: 呉

- 8月23日のインドネシア中銀会合では市場予想に反して2018年11月以来の利上げが決まった。今後インドネシア政府が実施する補助金付き燃料の値上げと世界食料価格の高騰によってコアインフレとインフレ期待の上昇リスクを軽減するために、予防的、先手的な利上げとした。利上げ以外に短期国債の売却と長期国債の購入も決定された。
- 今回のインドネシア中銀の利上げはインフレ期待を安定させる目的がメインだろう。国際商品市況の上昇などからインフレ率は直近4.94%と目標を上回る水準に上昇するなか、足元では国策の補助金により価格抑制されている燃料の値上げ観測が浮上。燃料値上げの実施によりインフレ率の更なる上昇が予想される。
- ただし、右下の図の通り、燃料値上げ後には時間の経過とともにインフレがピークアウトする傾向もある。世界景気が減速する中でエネルギーや食料価格が一層上昇する展開とならなければ、景気支援の観点からインドネシア中銀にとっては急ペースでの利上げを志向するものではないだろう。
- FRBの金融引き締めによるドル高が進みアジア通貨が軒並み下落するなかでも、資源高による貿易黒字が支えとなりルピアは相対的には堅調な動きを見せてきた。しかし今後は世界景気の減速鮮明化で貿易黒字縮小、また新興国からの資金流出も意識されるとルピアは対ドルで一段安になる可能性もある。インフレ高進続く中で、急速なルピア安や資金流出懸念への対応として、連続的な利上げをせざるを得なくなるリスクは意識しておきたい。

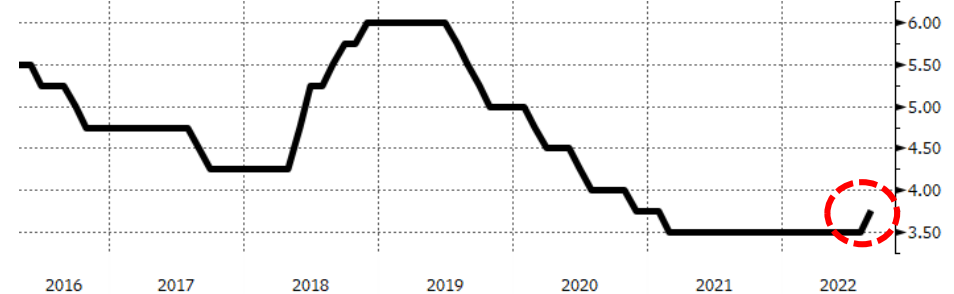
【CPI前年比の推移】



【年初来対ドル騰落率】



【政策金利の推移】



【経済・物価情勢の展望】

外部環境：世界経済が減速する中、スタグフレーションリスクと金融市場の不確実性が高まる。海外中銀の金融引き締めは外国資本流入を抑制し、通貨安の圧力を高める。

国内経済：経済回復が続く。堅調な国内需要と輸出が主導で第二四半期GDP成長率が予想を上回った。2022年度の成長率は予想レンジの上限になる見通し。

国際収支：経常収支黒字が拡大、金融・資本収支赤字が縮小尾。外貨準備が十分。

ルピアの安定性：ルピアは海外資本流入の回復、国内の外貨供給、明るい経済見通しで安定推移。

インフレ見通し：CPIは食品価格と供給制約で上昇中。コアCPIは安定しているが、今後の補助金付き燃料の値上げ、食料価格上昇、強い需要を受け、22年と23年はインフレ目標上限の4%を超える可能性がある。

出所:インドネシア中銀、Bloomberg

◎ 注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否にかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることがあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客さまご自身の判断でなされるようお願いいたします。